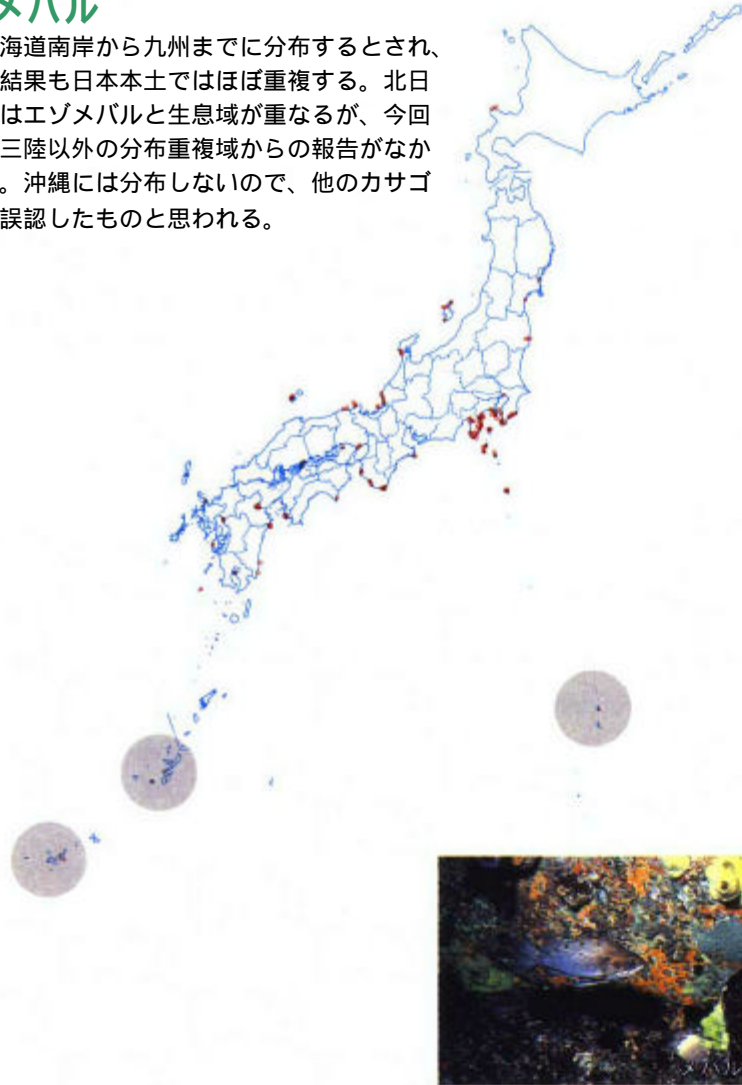


メバル

北海道南岸から九州までに分布するとされ、調査結果も日本本土ではほぼ重複する。北日本ではエゾメバルと生息域が重なるが、今回は南三陸以外の分布重複域からの報告がなかった。沖縄には分布しないので、他のカサゴ類を誤認したものと思われる。



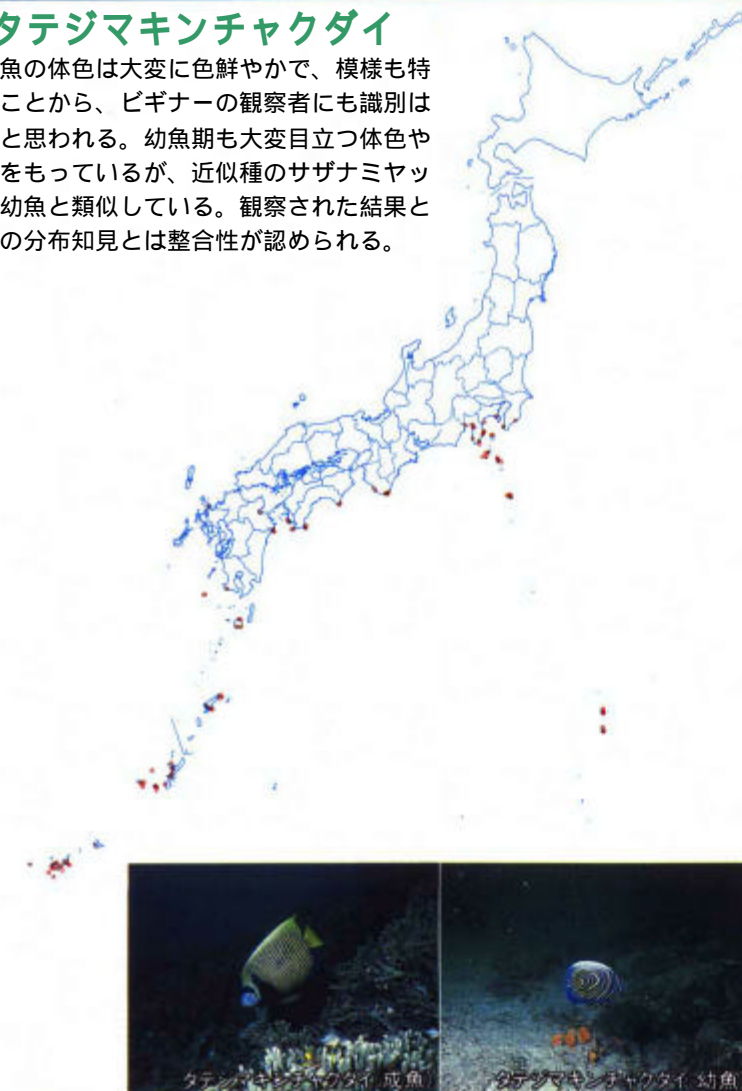
キタマクラ

本州中部以南に分布し、調査の結果も従来の分布域とほぼ一致する。太平洋側では普通種であるが、日本海側の記録は少なかったので、潜水調査による福井・兵庫両県の報告には分布の連続性に関して価値がある。沖縄にも分布するが出現個体数が少ないので、今回の調査結果に興味をひかれる。



タテジマキンチャクダイ

成魚の体色は大変に色鮮やかで、模様も特異なことから、ビギナーの観察者にも識別は容易と思われる。幼魚期も大変目立つ体色や模様をもっているが、近似種のサザナミヤッコの幼魚と類似している。観察された結果と従来の分布知見とは整合性が認められる。



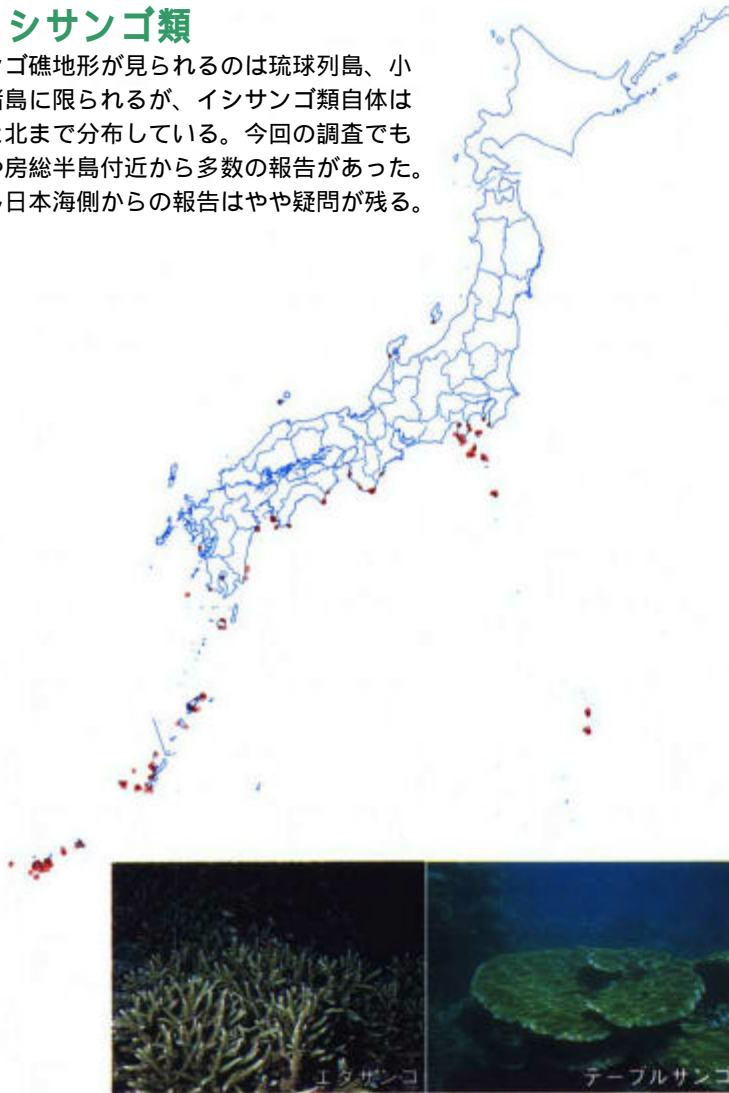
ウミタナゴ

北海道中部以南各地の沿岸に分布し、日本本土での調査結果は従来の分布範囲と一致する。分布の南限ははっきりしないが、奄美からの報告はやや疑わしい。沖縄には分布しないようなので、クロサギ類やシロダイの若魚などの誤認の可能性はある。



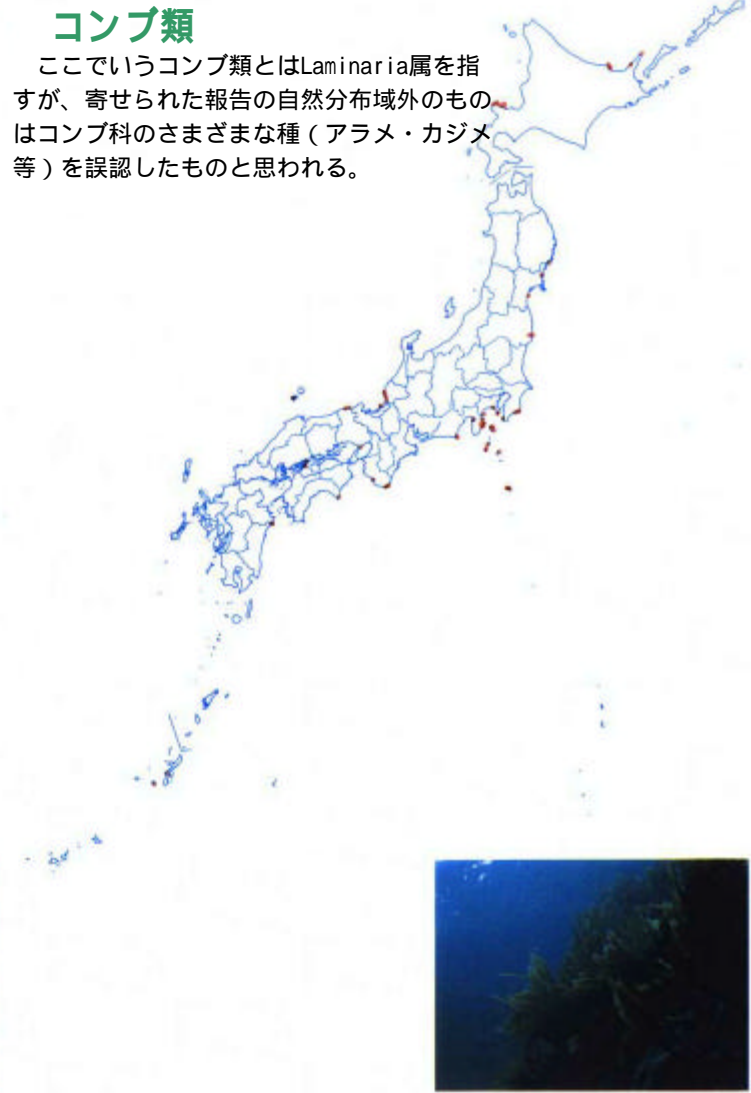
イシサンゴ類

サンゴ礁地形が見られるのは琉球列島、小笠原諸島に限られるが、イシサンゴ類自体はもっと北まで分布している。今回の調査でも伊豆や房総半島付近から多数の報告があった。ただし日本海側からの報告はやや疑問が残る。



コンブ類

ここでいうコンブ類とはLaminaria属を指すが、寄せられた報告の自然分布域外のものにはコンブ科のさまざまな種（アラメ・カジメ等）を誤認したものと思われる。



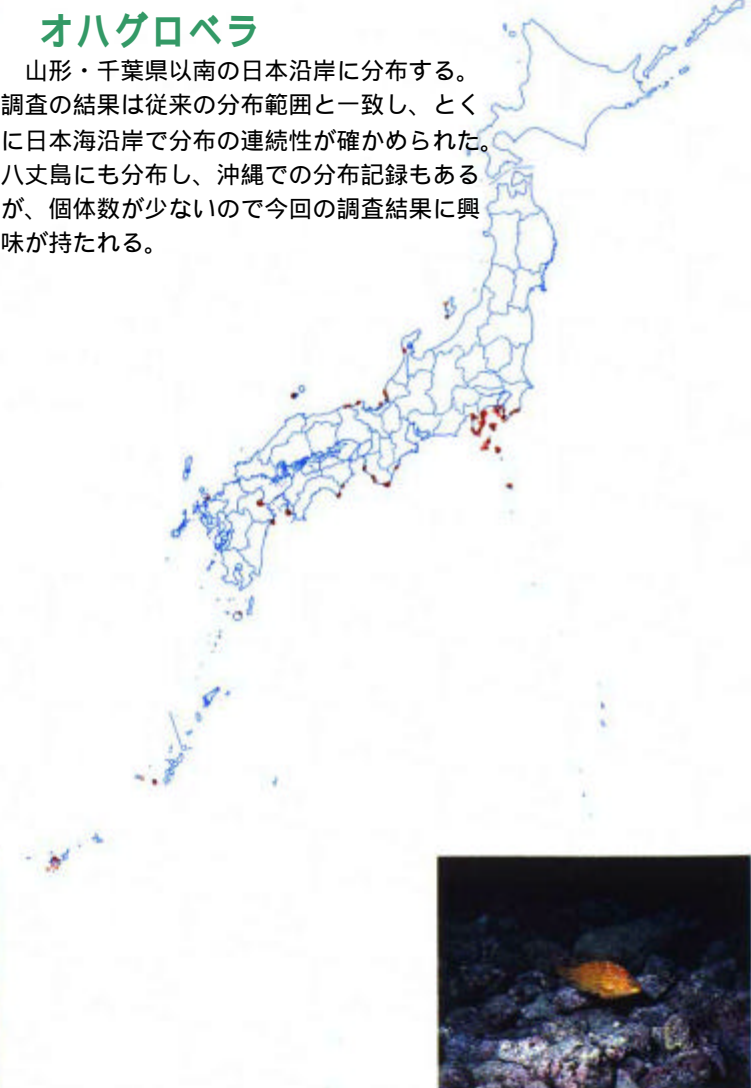
ヤマブキペラ

本種は岩礁海岸の比較的浅い転石場に多く見られる。主にサンゴ礁海域では普通種。オスは鮮やかな緑色の体色が他の海産魚にはあまりなく、水中ではよく目立つ。多くの群らがりには作らない。本種のオスの近似種にはオトメペラがあり、両種の分布域はほとんど重複するが、両種は胸びれの模様で区別できる。ヤマブキペラの分布域が、太平洋側では従来の知見よりかなり北上していることがわかった。本種は小笠原海域に多い。



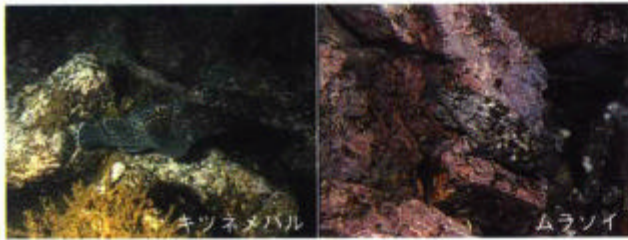
オハグロペラ

山形・千葉県以南の日本沿岸に分布する。調査の結果は従来の分布範囲と一致し、とくに日本海沿岸で分布の連続性が確かめられた。八丈島にも分布し、沖縄での分布記録もあるが、個体数が少ないので今回の調査結果に興味を持たれる。



キツネメバル

銚子以北と日本海沿岸に分布する。今回の調査では、銚子以南の各地から多数の報告が寄せられたが、分布南限から隔たった南西日本での発見はムラソイなどの誤認によるものであろう。沖縄からの報告はカサゴ類の誤認であろう。また、分布範囲内の東北日本からの報告にも、クロソイなどとの混同が考えられる。



ミノカサゴ

本種は各ひれが長く延長し、とくに胸びれの分岐条を長く扇状に開きゆっくりと遊泳しているのが観察も容易で識別しやすい。またミノカサゴ属ではハナミノカサゴとならんで大型になるのも特徴。南日本の沿岸域では、体型やひれの形状が類似した他種と分布域が重複する。ミノカサゴ類の中では本種の分布域がもっとも広く、従来の分布知見では北海道南部以南とされている。日本海側での分布記録はあまり知られていなかった。



クマノミ

本種は大型のイソギンチャク類と共生する生活型である点では、生息場所からの移動性がないので、比較的観察しやすい種といえる。従来の分布北限である房総半島南部とそれ以南の太平洋側に多く記録されたことは、従来の分布知見と整合している。ただし九州以南には類似種が多く分布するので、観察には熟練が必要となる。



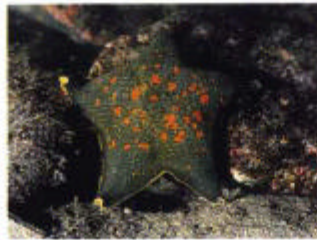
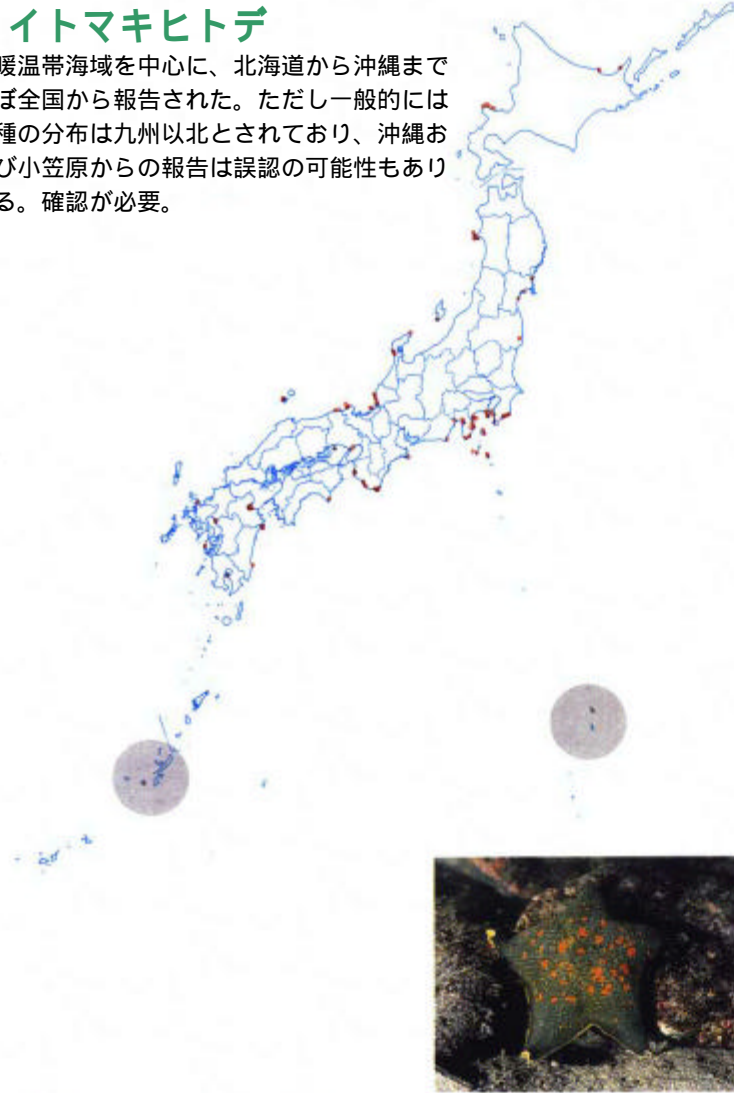
タカノハダイ

外海の岩礁地帯にすみ、新潟・茨城県以南、沖縄・小笠原までの各地沿岸に分布する。よく目立つ特有の斑紋があり、動作も緩慢で転石の上などに静止するので発見しやすく、調査の結果は信頼できるだろう。その結果も従来の分布範囲とほぼ一致する。秋田からの報告は分布の北限を越えるが、能登、佐渡にも分布するので誤認とは思えない。日本海側には分布域の重なるユウダチタカノハの方が多いので、一部に両種の混同があるかもしれない。



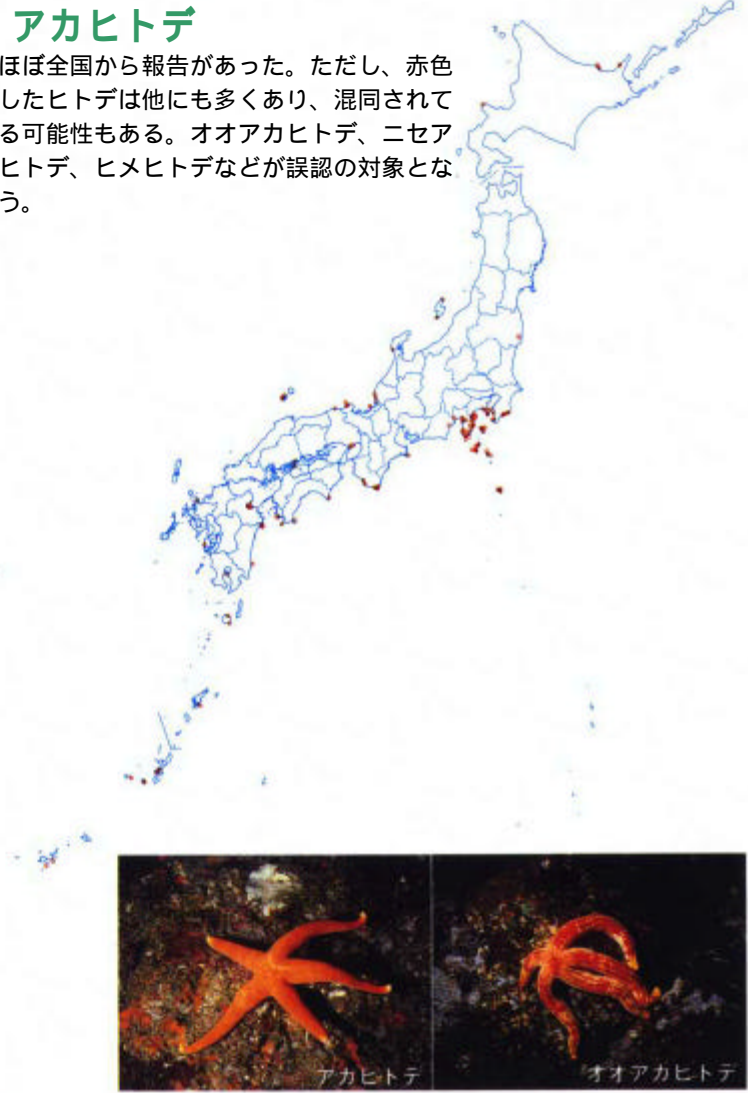
イトマキヒトデ

暖温帯海域を中心に、北海道から沖縄までほぼ全国から報告された。ただし一般的には本種の分布は九州以北とされており、沖縄および小笠原からの報告は誤認の可能性もあり得る。確認が必要。



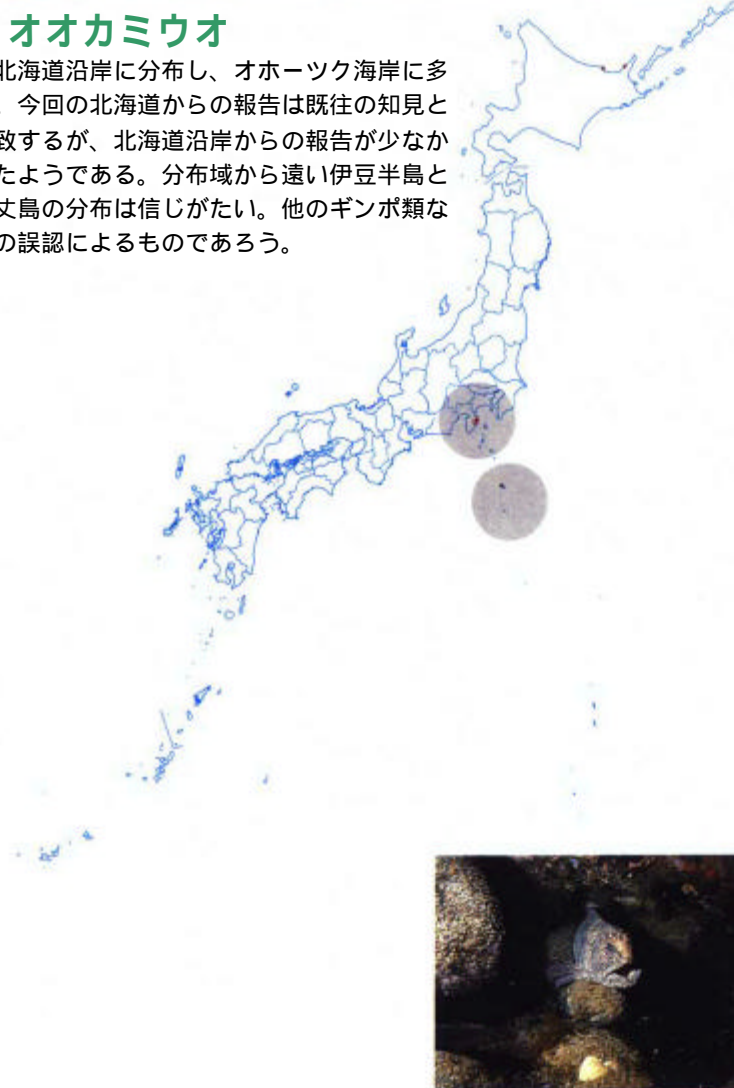
アカヒトデ

ほぼ全国から報告があった。ただし、赤色をしたヒトデは他にも多くあり、混同されている可能性もある。オオアカヒトデ、ニセアカヒトデ、ヒメヒトデなどが誤認の対象となる。



オオカミウオ

北海道沿岸に分布し、オホーツク海岸に多い。今回の北海道からの報告は既往の知見と一致するが、北海道沿岸からの報告が少なかったようである。分布域から遠い伊豆半島と八丈島の分布は信じがたい。他のギンボ類などの誤認によるものであろう。



シマソイ

北日本に分布し、北海道で普通種であるが、岩手県南部では個体数が少ない。南三陸ではクロソイを種苗放流しているため、これかキツネメバルが誤認されている可能性がある。本種の分布しない新潟県以南の発見はクロソイやキツネメバルの誤認、同じく千葉県以南からの報告はムラソイなどの誤認であろう。



アオヒトデ

サンゴ礁海域に多いヒトデだが、今回の調査では伊豆や紀伊半島など暖温帯海域からもかなりの数の報告があった。水深によっては、色の判別が困難なため、オオアカヒトデやチャイロホウキボシなどの種類と混同されている可能性が高い。



ヘラヤガラ

独特な体型から、他の魚種とは区別が容易である。本種の体色は変異に富み、黄色の個体は見つけやすいが、暗褐色の個体は周囲の環境にとけ込みやすいので見つけにくいこともある。サンゴ礁や岩棚の下に潜んでいることも多い。観察された結果と従来の分布知見とは整合性が認められる。



モンガラカワハギ

本種は、モンガラカワハギ類のなかでは体色や模様が奇抜であり、他の魚種や同科の別種とも識別は容易である。岩礁域に生活し、危険を感じた時や、夜間は岩の隙間に隠れる。主に南日本の沿岸域や特にサンゴ礁に多く分布するが、幼魚は流れ藻などについて漂流しながら北上することがある。観察された結果と従来の分布知見とは整合性が認められる。小笠原海域ではあまり多くは見かけない。



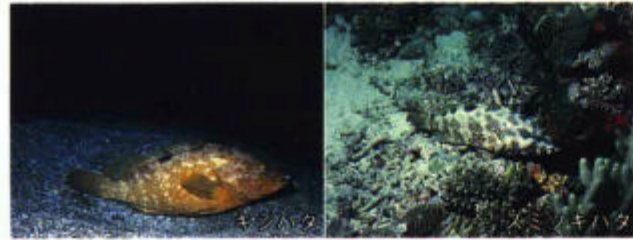
ハコフグ

山形・岩手県以南の日本沿岸に分布するが、今回の調査では石川県以北に報告がなかった。最近、西南日本に分布するミナミハコフグの研究が進み、ハコフグの分布の南限ははっきりしなくなった。紀伊半島以南では両種が混同されている可能性が大きい。奄美・沖縄・小笠原の報告はミナミハコフグであろう。



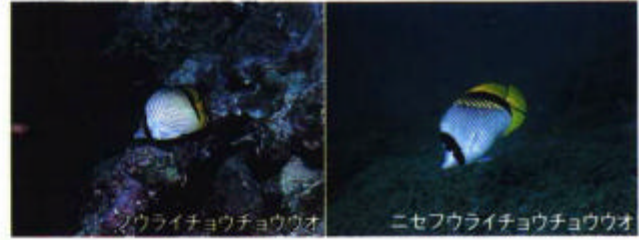
キジハタ

新潟・千葉県以南に分布する。日本海、瀬戸内海に多く、日本海沿岸の報告は信頼できる。太平洋沿岸には少なく、南西日本では稀^{まれ}で、本種に似て南西日本に多いノミノクチャやスミツキハタなどの誤認の可能性が大きい。キジハタの奄美以南の記録はなく、小笠原に不確実な記録がある。本種の分布の南限ははっきりしないが、今回の八丈島や沖縄からの報告は他のハタ類の誤認と思われる。



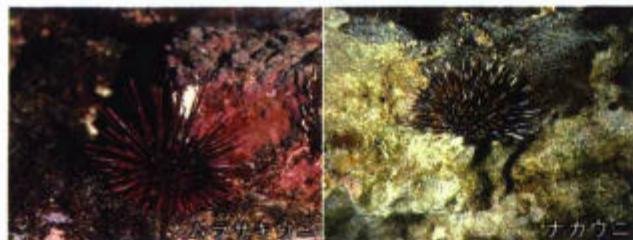
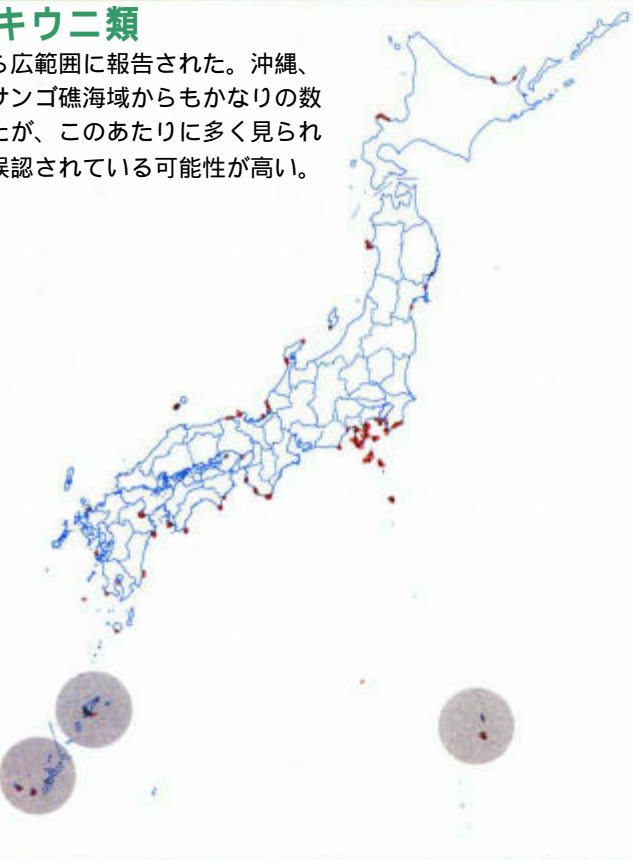
フウライチョウチョウウオ

本種は、日本の暖海沿岸域でチョウチョウウオ・トゲチョウチョウウオについて多く観察される。チョウチョウウオ類は種が多いが、個性ある体色と模様があるので種の判別はそれほど困難ではない。観察された結果と従来の分布知見とは整合性が認められる。サンゴ礁や岩礁域で普通に見られるが、幼魚期には比較的内湾にも進入する。相模湾以南には近似種のニセフウライチョウチョウウオも生息するので、本種との誤認が要注意である。



ムラサキウニ類

ほぼ全国から広範囲に報告された。沖縄、小笠原などのサンゴ礁海域からもかなりの数の報告があったが、このあたりに多く見られるナガウニと誤認されている可能性が高い。



イジマフクロウニ

比較的深い水深で見られる種だが、太平洋岸各地から広範囲に報告された。沖縄、奄美からも報告があったが誤認の可能性があり確認が必要。

